

## 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171501083		
法人名	有限会社 優心		
事業所名	認知症高齢者グループホームゆうしん		
所在地	北斗市開発225番8号		
自己評価作成日	平成31年2月15日	評価結果市町村受理日	平成31年3月26日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

敷地内に隣接している藤崎整形クリニックとの医療連携を図り、医師や看護師による日々の健康チェック、状態の変化等の早期対応を徹底し、健康に留意した生活を送ることが出来ます。リハビリ通院と往診により心身機能の維持、向上を図り、自分で出来ることを継続し、より自立した日常生活が送れるよう支援しております。入居者や家族とのコミュニケーションを大切に、一人ひとりの思いを理解することで、その人らしく、意欲や楽しみをもち、安定した生活が送れるよう支援しております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2018_02_2_kani=true&amp;JigvoCd=0171501083-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2018_02_2_kani=true&amp;JigvoCd=0171501083-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西1丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	平成31年3月22日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

北斗市と函館市を結ぶ国道227号線のそばに、母体法人の医療機関と隣接して当事業所は立地している。新函館北斗駅から車で約20分程の所で、事業所の目前には新幹線が走る高架線上の線路が田園地帯の中を、大きなカーブを切って駅に向かって建ち並び、時の流れが感じられる環境のなかで、利用者は農業の経験を活かし、菜園で野菜作りを楽しみ食材に活用している。毎月発行しているホーム便りで日々の生活の様子を伝え、医療面に於いても家族に安心感を与えている事業所である。管理者は在宅当時と変わらぬ生活支援に取り組み、元ピアノ奏者として活躍した利用者はイベントの時には実力を発揮して会場を和ませ、職員は家庭的な雰囲気づくりに配慮し、利用者は地域住民と交流を重ねながら穏やかな暮らしを確保している。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果		項目	取り組みの成果	
	↓該当するものに○印	↓該当するものに○印		↓該当するものに○印	↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を事業所内に掲示し、また職員のネームプレートの裏にも記載し意識してサービスを提供している。	家族のような暖かな雰囲気の中で笑顔あふれる生活環境を利用者と共に創造することを主体とした法人理念を職員間で共有し、サービスを提供している。	ホーム長は法人理念のほかに介護理念を作成する事を検討中であり、全職員で意見の統一を図りながら、実践に活かすことを期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会への加入、夏祭りや観桜会に参加。行事での保育園やボランティアの参加も恒例となっており、中学生の職業体験学習の受け入れを行っている。避難訓練に近隣商業施設なども参加。	町内会に加入し、観桜会、夏祭り、ポッチャーゲームなどの活動に参加している。保育園児が訪れたり、地域の方々から野菜の差し入れがあり、実践者研修の実習生とボランティアの受け入れもあり、交流は図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	研修会への参加にて事例検討の発表を行ったり、運営推進会議にて、グループホームの役割や入居者に対する支援方法などを地域の方へ伝えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催している。町内会、市の担当職員、地域包括支援センターの参加があり、事業所の活動内容の報告や情報交換を行っております。	定期的に開催している運営推進会議は市担当者、包括支援センター、町内会役員などが参加し活動報告と質問や意見交換が行われている。農繁期になると家族の参加が減少するが議事録を郵送で報告し、共有している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当職員と電話などで連絡を取り合い、相談、アドバイスを受けております。また包括支援センターにも営業回りや空き情報を送付したりし、入居者の状況なども含め情報交換を行っている。	市担当者とは困難事例、ケアプラン作成時の確認事項などでアドバイスを受け、利用状況の問い合わせは包括支援センターと連携をしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のマニュアルを職員がすぐに見られる場所に置き、職員が意識し日々のケアに取り組んでいる。新入社員が入った際には、オリエンテーションにも身体拘束についての説明を行い、3ヶ月に1回身体拘束委員会を実施し、全職員参加、供覧し意識付けを行っている。	3か月ごとに実施する身体拘束廃止委員会を中心に拘束による弊害について職員間の意見の統一を図ったり、日々の業務の中で気づきに注意し合うなど抑圧感のない自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束のマニュアルを職員がすぐに見られる場所に置き、職員が意識し日々のケアに取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料を職員が見られる場所に置き、職員が研修に参加し、必要な場合は関係機関への相談活用が出来るよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	運営規定、契約書、重要事項説明書にて説明し、納得を得てから契約を結んでおります。解約時は意向確認し、本人の状況にあった今後の暮らし方を検討し、納得した上で退居している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に家族と話をし、不安なことや意見などを話しやすいよう密にあったことを電話でも話しながら、関わりをもっている。事務室前に意見箱を設置し、意見が出来るようにしている。	家族の訪問時には運営推進会議や行事の参加を促しながら意見や要望を聞く機会をつくり、表出された課題は連絡ノートに記録して職員間で検討して反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や各時間の申し送りにて意見や提案を聞く機会を設けている。全体会議、内部研修を行った後の時間なども聞く時間なども設けております。	ユニット会議の中で管理者は職員から意見や要望を聞きホーム長と検討して改善に取り組んでいる。年1回の自己評価の結果を基に個人面談を行い運営に取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務体制や休日希望の相談に随時応じている。健康面については、隣接している藤崎整形外科クリニックの受診や相談を行い、職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に勤務評価を行い、一人ひとりの能力に合った研修計画を立てている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会に参加できるよう計画を立て、ケアカフェの参加や親睦会へ同業者と交流する機会を作っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に必ず本人、家族と面談し情報収集を行い、本院の訴えを傾聴し、安心して暮らせていけるよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に必ず訪問、来設していただき、見学、相談を行っている。家族のニーズについても傾聴し、安心できる関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に情報収集にて状況を把握し、必要な支援を行っている。必要があれば他事業所と相談する場合もあり。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互いに理解し合えるよう、日々の生活の中でコミュニケーションを図り、共に暮らす関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話連絡、ホーム便り等で近状報告し、家族も本人の状況を把握した上で一緒に支援方法を検討している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の馴染みの場所などを把握し、ドライブや散歩などで出かけた家族との外出、外泊支援を行っている。親戚や友人が時々面会に来られ、ホーム内や居室内で談話され一緒に過ごす時間がある。	買い物後に利用者の自宅近辺に立ち寄ったり、隣接の医院の待合室での再会や、馴染みの方が受診後に訪れている。新利用者は従来の美容室を利用するなど関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	暮らしの中で入居者同士の関係を把握し、入居者同士が関わり合えるような環境を作っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後は必要に応じて家族や他のサービス事業所と連絡を取り、相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	情報収集、アセスメントを十分に行うことで一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。	入居時に本人と家族からのアセスメントを丁寧に行い、これまでの生活環境と格差がないよう配慮し、個々に出来る事を見出しながら、職員は意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や入居前に関わりの合ったサービス、他事業所から情報収集し、生活歴やこれまでの経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々関わる中での気づきを記録し、変化が見られたら職員間で情報交換し共有している。個別記録、バイタル表、排泄表を記載し、現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向を確認し、介護計画に取り入れている。定期的にカンファレンス、モニタリング等を行い、職員間の話し合いで出た意見を反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人と家族の要望を反映し、医師や看護師の意見を取り入れ、ユニット会議の中で職員から課題やアイデアを話し合い、定期的にモニタリングを実施し、現状に合った介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に介護計画の実施状況を記録している。日々の様子や会話の内容、ケアの工夫を記録し、職員間で情報共有している。介護計画の見直しの際に活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じた話し合いを行い、その時に合った支援方法を検討し対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議の際などに行政や町内会の方から情報収集し、地域資源の把握し活用している。また町内会からの回覧板なども活用。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を確認し、かかりつけ医師を決定している。従来のかかりつけ医師を継続することもあり、本人の状況や家族と相談し決めている。	母体法人の医療機関が隣接にあり、利用者はリハビリに通う事が出来、緊急時や夜間体制も整備され、2週間ごとに協力医の往診が行われている。従来のかかりつけ医の受診は職員が対応することもあり、結果を家族に報告している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接の藤崎整形クリニックの看護師と医療連携を図り、看護師に日々健康状態の報告を行い、適切な看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は定期的に面会に伺い、病院関係者との連絡も定期駅に行き、相談や病状の把握に努めている。隣接の藤崎整形外科の医師や看護師にも都度報告している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた指針を作成している。入居契約時には家族に重度化した際の意向の確認をし、職員間での共有している。	契約時に事業所の方針を家族に説明し同意を得ている。医師の判断によりその時期を迎えると、重度化に伴う支援体制を整え、家族の再確認と連携をしながら、安心と納得が得られるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時対応マニュアルを職員がすぐに見られる場所に置いている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施している。日中、夜間を想定した訓練を、近隣の方も参加し実施している。緊急連絡網を作成しており、近隣の店舗や町内会の方も入り協力体制を整えている。	年2回、日中と夜間想定での訓練を実施している。近隣のガソリンスタンドやコンビニエンスストア、町内会などが入っている地域協力連絡網を作成し、協力を得ている。自然災害に備えて備蓄の準備をしている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合った声かけや関わり方を職員間で共有し、対応している。排泄、入浴、着替えなどの声かけには特に配慮を対応している。	利用者の人格を尊重し、職員は羞恥心に伴う配慮や声かけ、守秘義務の徹底を図り、個人情報に関する書類は一定の場所に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりの中で思いや希望を出せるように信頼関係を築くことを努めている。言動や表情等から思いを汲み取り、自己決定出来るよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員のペースではなく、一人ひとりのペースに合わせた関わり方に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に出張理美容室を利用し散髪や毛染めパーマなど本人の好みに合った身だしなみやおしゃれが出来るよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事担当職員が入居者の好きなものを取り込み献立を作成している。一人ひとりの状態に合わせた食形態で提供できるよう、介護食なども取り入れている。	職員は年間の歳時に合わせて献立を作成して季節を味わい、菜園で採れた野菜を利用し、誕生会は本人の嗜好を聞いて料理を提供し、夏場はウッドデッキでバーベキューを楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に応じ、食事提供量の工夫や飲料を確認し、必要量を確保できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、起床時に口腔ケアを行い清潔保持をしている。一人ひとりに合った口腔ケア方法で実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チャック表を活用し、排泄パターンの把握を行い、出来る限りトイレでの排泄が行えるよう時間ごとのトイレ誘導を行っている。	日中は布パンツを使用し、トイレでの排泄は可能であり、夜間は定期的に巡回し、家族の了解を得て1名の方がオムツを使用している。失禁時は浴室やシャワーが近く、処置に便利な造りになっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がちな方には、乳酸菌飲料やオリゴ糖の摂取を促している。散歩や歩行器など日常的に体を動かす機会が増えるよう支援している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日や時間を決めず、個々のその日の体調や気分に合わせて入浴出来るようにしている。会話を通して楽しく入るなどの支援をしている。	週2回を目安に入浴している。一人ひとりに合わせて声がけをしたり、同性介助を取り入れるなど工夫をしている。自力で入浴できる利用者には職員が見守りながら、ゆっくり、のんびりと入浴を楽しむよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣やその時の状況に応じ、良眠を得られるよう寝具や衣類等の工夫、温室などを配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	おくすり手帳を活用し、薬の木液について理解し、服薬の支援をしている。服薬中の症状の観察に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を把握し、一人ひとりの能力に応じ家事や畑仕事などの役割、気分転換、趣味活動を通じ楽しみが行えるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	生活歴や関わりの中で得た情報から、個々の出かけた場所などを把握し、個別外出を行っている。	隣接の医療機関の駐車場は大型のバスや車の往来はあるが、そこを通りぬけると、のどかな田園地帯となり、散歩に適した環境にある。遠出の外出支援は年間計画に企画され、多方面に出掛けてストレス発散と五感刺激が得られるよう日々の中で活かしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理の可能な方は小学の金銭を所有している。希望時には近隣のコンビニに職員と一緒に出かけ、買い物できるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時は家族や親族へ電話をかけて関わりがもてるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は歩行出来る方、車椅子の方共に移動しやすいうように広くとってある。エアコン、加湿器にて温度調整し、レースカーテンにて採光を調整し快適に過ごせるよう支援している。ホールにはソファーやテレビを置き団欒できる場所を作っている。	玄関と事務室を中央に左右に各ユニットがある平屋造りの事業所で、機械室の奥に職員の休憩室がある。居間兼食堂は広く、ゆったり感があり、採光も程よく、秋の文化祭に出展予定の大きなちぎり絵が張り出され、利用者は個々に居場所を確保している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間には一人で過ごせる椅子や利用者同士と一緒に過ごせるソファーや食卓を設置し、本人の意見を尊重しながら過ごしていただくようしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、家族と相談し、かぐや日用品など使い慣れた自宅で使用していただくものをできるだけ持ち込んでいただき、好みのものを飾り、居心地よく過ごせるよう工夫している。	居室はクローゼットが備え付けられ、在宅当時使用した家具や日用品が持ち込まれ、家族の写真が飾られている。家族の意向でエアコンを取り付け、掃除機を用意するなど、快適に過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを必要な場所へ設置し、安全に生活できるようにしている。居室やトイレに目印を付け、テーブル等は車椅子の方でも使いやすい高さを使用し、自立した生活を送れるよう工夫している。		